

学校関係者評価委員会 議事録

理事長	校 長	副校長

令和 7 年度 学校関係者評価委員会

1 - 7 頁

日 時	令和 7 年 6 月 2 7 日（金） 1 6 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0 [会場：日本分析化学専門学校 3 階研修室]														
出席者	欠	出	出	出	出	出	出	出					進行	議事録	記録
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	西澤 里美	長田 芽生	石田 喜一郎	尾崎 信源	宮道 隆					宮道 隆	溝田 美和	溝田 美和
No.	項 目		審 議 経 過										担当	期限	
1	議題		1. 開会 2. 委員紹介 【資料①】 3. 挨拶 【資料②】 4. 委員会の位置づけと目的 【資料④、⑤】 5. 本校の自己評価の報告 【資料③、⑥】 6. 自己評価についての意見 7. その他 8. 閉会												
2	開会		事務局より開会の挨拶がなされ、令和 7 年度 本校 学校関係者評価委員会が開会した。												
3	委員紹介		事務局より、本委員会の委員の紹介がなされた。 →資料① 令和 7 年度「学校関係者評価委員会」委員リスト ・梅川雅章 委員（分野団体・大阪府職業能力開発協会 技能検定第一課長） ・内田 敬 委員（就職先企業・交洋ファインケミカル株式会社 総務部次長） ・大原一浩 委員（高等学校・大阪府立成美高等学校 教諭） ・西澤里美 委員（保護者） ・長田芽生 委員（卒業生・東洋サクセス株式会社） ・石田喜一郎 委員（校長指名・大研科学産業株式会社 営業部副部長）												
4	挨拶		尾崎校長より、委員会開催に挨拶があり、事務局からは学校の現状報告があった。 →資料② 本校の概要と近況のご報告 （１）本校の概要と近況報告 ①学校行事について ・学校行事 昨年度も、7 月に分化祭、1 0 月にスポーツ大会、2 月には国内研修旅行を実施した。国内研修旅行は、九州方面で実施したが、昨今の物価高騰により学生より徴収している旅費積立金では令和 5 年度に続き、フェリーを利用するしかなかった。新日本製鐵(株)様やシャボン玉石けん(株)様などを見学し、学生にとって充実したものとなった。 <次頁に続く>												

日 時		令和7年6月27日（金） 16：00～17：00 [会場：日本分析化学専門学校 3階研修室]														
出席者		欠	出	出	出	出	出	出	出					進行	議事録	記録
		梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	西澤 里美	長田 芽生	石田 喜一郎	尾崎 信源	宮道 隆					宮道 隆	溝田 美和	溝田 美和
No.	項 目			審 議 経 過											担当	期限
4	挨拶 （前頁の続き）			・就職関連行事 学生が企業様へ出向き見学をする「企業見学会」を年間3回実施した。見学先として、(株)ピカソ美化学研究所様、(株)タツタ環境様、ニプロファーマ(株)様などにご協力をいただいた。 分析実務に従事している方を講師としてお招きし、職業教育講座として「化学実務駆伝」を年間3回実施した。 卒業生就職先企業より採用担当者を講師としてお招きし、企業が求める人物像や、就職後に現場にて必要となる技術などを紹介いただく「企業紹介講座」を行った。 就職関連行事すべてにおいて、分析の現場を知るよい学びとなった。 ・卒業研究 本校で化学を学び、専門的な知識と技術を修得し、2年間の集大成「卒業研究」に取り組んだ。昨年度も、企業様とのコラボレーションを行ったが、数は少なくなった。卒業研究において、企業様との制作経験が就職活動において役に立ち、研究開発職として就職内定をいただく要因にもなりうることは、これまでの実績からも言えるため、外部との連携は強化していくことが課題となった。 ②本校の学科とカリキュラム ・農水産バイオ分析学科 4月より学科名が変更した。 ・化学分析学科 4月より募集停止とした。 ・先端化学分析学科 3年制の通信制学科であり、昨年4月に開設した。スクーリングは年に4回実施した。学び直しなどニーズは様々だが、卒業を目的としない一部の単位を修得する学習も可能という特徴もあり、社会人の入学生も多いが、通信制高校からの入学生も若干名おられ、今後も増えていく可能性がある。その体制を強化していくことが課題である。 ③2024年のふりかえり ・募集状況 過去4年を振り返っても学生数は減少しており、大変厳しい状況である。定員数に対しての入学生数で定員充足率が決まるが、充足率は学校の評価にもつながるものである。先端薬事分析学科や化学分析学科の募集を停止した理由もこれに起因している。												

<次頁に続く>

日 時		令和7年6月27日（金） 16：00～17：00 [会場：日本分析化学専門学校 3階研修室]														
出席者		欠	出	出	出	出	出	出	出					進行	議事録	記録
		梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	西澤 里美	長田 芽生	石田 喜一郎	尾崎 信源	宮道 隆					宮道 隆	溝田 美和	溝田 美和
No.	項 目			審 議 経 過										担当	期限	
4	挨拶 （前ページの続き）			・入学者について 今春に高等学校を卒業したのが全体の約3分の2であった。そのうち、大阪出身者が約半数で、関西在住者が6割を占めている。 ・在校生について 男女比においては、数年前まで男性が6割・7割であったが、近年は半々となっている。学科によって偏りはある。 ・到達目標の結果 令和6年度の卒業生進路決定率は、95.3％であった。進路決定者のうち5名が大学編入学を行ったが、それ以外の進路決定者は、全員が関連分野に就職をした。 資格においては、国家資格「化学分析技能士3級」取得率6割程度であり、危険物取扱者甲種・乙4は、昨年と比べ取得率が上がった。毒物劇物取扱責任者、化粧品製造業責任技術者、化粧品総括製造販売責任者は、本校カリキュラムにより卒業と同時に全員取得できる。それ以外には、国家資格の特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者、有機溶剤作業主任者、酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者の講習を受講した。 ・中途退学者 令和6年度は、約8％であった。退学者数は、昨年と大きく変わらないが、学生数の減少した分だけパーセンテージが上がった。減らすための対策として講師の対応力を上げるだけでなく、スクールカウンセラーの設置なども検討する必要があると考えている。 ・文部科学大臣認定の教育内容証明書 新設された学科を除き、すべての学科が国より「職業実践専門課程」に認定されている。認定の条件は複数あるが、本会議もその一つになる。 ・卒業生の就職先 様々な業界から求人票をいただき、改めて分析の世界は広いと実感している。 ・大学3年生編入学実績 令和6年度は、5名の学生が大学編入学をした。編入先としては、富山大学、島根大学などが挙げられる。6月に開催したOB会では、編入学経験者も参加しており、本校で修得した分析技術を活かして仕事をしているという報告を受けた。												
＜次頁に続く＞																

日 時		令和7年6月27日（金） 16：00～17：00 [会場：日本分析化学専門学校 3階研修室]													
出席者	欠	出	欠	出	出	出	出	出					進行	議事録	記録
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	西澤 里美	長田 芽生	石田 喜一郎	尾崎 信源	宮道 隆					宮道 隆	溝田 美和	溝田 美和
No.	項 目		審 議 経 過										担当	期限	
5	委員会の位置づけと目的		事務局より、本委員会の位置づけと目的に関して、以下の説明があった。 →資料④職業実践専門課程制度と本校学科との関係 ⑤「職業実践専門課程」の文部科学大臣認定について 平成23年にキャリア教育職業教育の在り方ということで文部科学省より方針が出たものである。専修学校の質の保証を・向上を目指すもので、職業教育を行えているかということを審査し、認定される。要件として修業年限2年以上、企業等と連携を取り教育課程委員会を年2回開催、企業等と連携して実験・実習を行う、企業等と連携し教員に対し実務に関する研修を組織的に実施し、学校関係者委員会を年1回開催し情報公開を行うことなどがある。公開されている一覧によると令和5年の学校数は65校、学科数は95学科である。全国の2693校の内、1110校であるので41%程度、学科数は3199学科が認定されている。本校が属する工業課程では、全体の53%ほどになる。都道府県で見ると東京都が学校数・学科数ともに一番多く、次に多いのが大阪府である。本校は、医療医薬分析学科、健康化学分析学科、生命化学分析学科、環境化学分析学科、化学分析学科の5学科が認定されており、認定学科は国の修学支援新制度、専門実践教育訓練給付金の対象となるため、本校の学生も複数名が利用している。												
6	本校の自己評価の報告		事務局より、自己評価 学校関係者評価規程の説明を実施した。 →資料③ 令和6年度自己評価報告書 ⑥ 令和6年度学校関係者評価委員会議事録 内田委員長より指名を受け、事務局より専門学校の評価は外部のアンケート等も参考に教職員による評価（自己評価）をPDCAサイクルに基づき実施し、学校自らが選任した学校関係者（業界団体・企業・高等学校・保護者など）による委員会が自己評価の結果について評価を行う（学校関係者評価）ものであること。また、学校関係者は教職員と共通理解を図り、自己評価結果の客観性・透明性を高め、今後の学校運営の改善のための助言等を行い、この評価結果をとりまとめ公表するとともに一定レベルを担保していくものであることを説明した。 また、このような主旨を理解の上、本委員会では教職員による自己評価について、厳しい視点で忌憚のない意見を求めたいということ。 ＜次頁に続く＞												

日 時		令和7年6月27日（金） 16：00～17：00 [会場：日本分析化学専門学校 3階研修室]													
出席者	欠	出	出	出	出	出	出	出					進行	議事録	記録
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	西澤 里美	長田 芽生	石田 喜一郎	尾崎 信源	宮道 隆					宮道 隆	溝田 美和	溝田 美和
No.	項 目		審 議 経 過											担当	期限
6	本校の自己評価の報告（前頁の続き）		この評価項目は文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき策定しているという前提を説明した上で、令和5年度自己評価結果報告書の各項目について、事務局から昨年度との変化を中心に詳細な説明を行った。 （1）令和6年度の重点目標 1. 本校の建学の精神及び教育理念（三実一体教育）の学外への発信と、これらに基づく教育目標の達成 2. 授業や管理面における I C T化への対応 3. 通信制学科の創設 （2）向上したもの ①学校運営方針は明確に定め、教職員に明示し伝わっているか。また、それを基にした各種諸規程が整備されているか。 ②学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか ③社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ④施設・設備は、教育上の必要性に充分対応できるよう整備しているか （3）低下したもの ①関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）を実施できているか ②関連分野における先端的な知識・技能等を修得させるための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組を行っているか ③職員の能力開発のための研修等が行われているか												
7	自己評価についての意見		各委員から以下のような意見があった。 また、評価内容や点数については適当との評価を得て、令和5年度の自己評価については、適切な実施の上での結果であるとの結論となった。 ①項目5－2 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか 【意見】いろいろな学生が入学するなかで、講師の対応の幅も広がっていると想像する。例えば、外部より学生の相談を受けられる方を用意するなどの対応は検討しないのか。 【回答】様々な背景を持った学生が入学しているのは事実であり、その対応に時間を割くことも多い。校内では、例えば課外活動などの対応を非常勤講師に割り振るなどの検討もしていく必要があるという意見も出ている。その他、校内のカウンセラーの設置も同様である。 ＜次頁に続く＞												

日 時		令和7年6月27日（金） 16：00～17：00 [会場：日本分析化学専門学校 3階研修室]													
出席者	欠	出	出	出	出	出	出	出					進行	議事録	記録
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	西澤 里美	長田 芽生	石田 喜一郎	尾崎 信源	宮道 隆					宮道 隆	溝田 美和	溝田 美和
No.	項 目		審 議 経 過										担当	期限	
7	自己評価についての 意見（前頁の続き）		②項目3－5 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）を実施できているか 【意見】企業との連携は学生にとってもよい学びの機会とを感じるが、現状はどのようになっているのか。 【回答】令和6年度の卒業研究では、企業と共同研究をする数は少なくなかったが、今年度はその反省踏まえ、多くの企業に打診したところ現状で各学科1テーマ以上の連携をとれる状況に改善している。まずはこの成果を出すと共に、企業の考えるねらいと、学校とのねらいをしっかりと図りながら対応していくことが継続にもつながると考えている。 ③自己評価項目5－8 卒業生への支援体制はあるか 【意見】卒業生ももつ保護者の視点から、卒業生も本校を卒業してよかったと思える学校であって欲しい。 【意見】卒業生として、OB会の分友会があることは案内も届いて把握しているが、出席するとなればそのメリットを考えてします。現状では、卒業生が感じるメリットは少ないのではないかと。それによって、活性化も進んでいないのではないかと。 【回答】学校としては卒業生組織の分友会の活性化は、毎年の課題と認識しているが、有効な手段が打てていないのが現状である。今後も、卒業生の声を聞きながら、対策を講じていく。また、その結果、学校運営にも良い影響がもたらされるものと考えている。 ④評価項目5－9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか 【意見】社会人のニーズに応えるために、土日開講の化学分析学科があったと考えるが、なくなるのは残念である。そのようなニーズに今後はどのように対応するのか。 【回答】土日開講の化学分析学科ではやく8割から9割が社会人の入学生であった。社会人のニーズの受け皿となっていたことは認識しているが、この度、通信制の先端化学分析学科を設置したことで、通信制の学科を選択する社会人が増えた。さらに、これまでよりさらに遠方にお住まいの方も入学や学び直しを検討しやすくなり、現代におけるニーズには応えることができていると感じている。今後も、通信制の体制を強化することは課題としているが、ニーズに合ったカリキュラムも見直していく必要はあると考える。												

<次ページに続く>

